

特集

当協議会の歩みと 「びんのリサイクル通信」



今後も、ガラスびんの3Rの推進状況を中心に、
多様な情報を発信してまいります。

ガラスびんリサイクル促進協議会
会長 山村幸治

当協議会の活動内容のご紹介並びに事業運営へのご理解ご協力を賜ることを目的に2003年11月に創刊されました「びんのリサイクル通信」も、お陰様をもちまして今回第20号を発行する運びとなりました。会員各社におかれましては、日頃より多大なるご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

当協議会の歩みを振り返りますと、1984年11月に当協議会の前身である「ガラスびんリサイクリング推進連合」が設立され、1996年11月にガラスびんリサイクル促進協議会へと改称し今日に至り、容器包装リサイクル法の施行により設立された(財)日本容器包装リサイクル協会と連携をとりながら、ガラスびんのリサイクル促進ならびに効率化を目標に色々な事業に取り組んでまいりました。

この間、環境に対する消費者、自治体、企業の意識は発足当時と比べて大きく変化し、特にリサイクルにおいては各主体とも熱心に取り組まれ、その成果は目を見張るものがございます。ご承知のとおり昨年12月に開催されたCOP 15「コペンハーゲン合意」で日本は、

CO2の排出量を2020年までに1990年比25%削減する数値目標を発表し、今後各主体には、目標達成に向けてより一層具体的な取組みが求められるようになってくると思われれます。当協議会は、これらの要請に対し「これまで以上にガラスびんの3Rを推進し、環境負荷の軽減を図る」ことで貢献してまいりたいと考えております。なお、今後の実行計画につきましては、(財)日本容器包装リサイクル協会をはじめ、会員各社のご協力を得ながら、それぞれの課題に取り組んでまいりますので、宜しくご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、今回第20号の記念企画として、“ポスター・コンクール(テーマ:ガラスびんのリサイクル)”を実施いたします。小学生から中学生までの方を対象としていますが、皆様から頂戴したご意見やアイデアは、当協議会の今後の事業活動に活用させていただきますので、多くのご参加をお願い申し上げます。なお、裏面に当コンクールへのエントリー(申込)方法等をご紹介しますのでご覧下さい。

● 当協議会の歩みと「びんのリサイクル通信」の特集

ガラスびんリサイクリング推進連合からガラスびんリサイクル促進協議会へ 25年にわたり、循環型の社会づくりに貢献してきました。

昭和47年度(1972)

- 日本製壺協会(日本ガラスびん協会の前身)が、ガラスびんのリサイクリングを組織的に開始



▲推進連合のマーク

昭和59年度(1984)

■「ガラスびんリサイクリング推進連合」発足

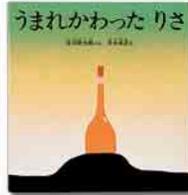
- 推進連合発足前に実施していた「あきびんポストによる回収実験」を継続
- 「ニュースリサイクリング」(びんのリサイクル通信の前身)を週1回作成し、会員、地方自治体、報道機関等へ配布



▲あきびんポスト

昭和60年度(1985)

- 幼稚園、小学校低学年向けのガラスびんリサイクリングに関する副読本として、絵本「うまれかわった りさ」(文: 谷川俊太郎 絵: 元永定正)を制作



▲絵本「うまれかわった りさ」

昭和61年度(1986)

- 日本ガラスびん協会と共同で標準型リターナブルびん(500 mlと1000 ml)を開発

平成2年度(1990)

- あきびん回収の促進事業として、地方自治体にプラスチックコンテナ(P函)を無償提供

平成3年度(1991)

- 統一規格のリターナブルびんに表示するマークデザインを、日本ガラスびん協会と共同で制作
- 地方自治体向け、ガラスびんリサイクリングをさらに推進させるために、プランニングマニュアルと事例集を作成

平成4年度(1992)

- カレット用途開発のアイデア募集を実施
- PRビデオ「びんランドのきかんしゃ」を制作



▲ビデオに使用したびんランド

- ガラスびんリサイクリング推進連合会長と著名人の対談シリーズ(野中ともよ氏、フランソワーズ・モレシャン氏、ピーター・バラカン氏)で雑誌広告を実施

平成5年度(1993)

- TAMAらいふ協会主催「VOICE 93 多摩21くらしの祭典」(国営昭和記念公園)に出展

平成6年度(1994)

- 「ガラスびん推進プロジェクト」(略称RAMプロジェクト: リターナブルびんの推進・普及、カレットの用途開発、ガラスびん原料としてのカレット利用の推進)の活動を開始



▲RAMプロジェクトのキャラクター

平成7年度(1995)

- ガラスびんの流通量とリターナブルびんの使用量及びP函の流通量調査を実施

平成8年度(1996)

■「ガラスびんリサイクル促進協議会」設立

- びんのリサイクルと流れの理解を高めるために、フローをまとめたトータルフローシステムを導入
- 「移動式カレット粒状化設備に関する研究開発・実証試験」について調査研究を開始
- エフエムジャパン(現J-WAVE)のリサイクルキャンペーンに協賛し、ガラスびんリサイクルへの協力を求めるラジオCMを放送



▲当協議会のマーク

平成9年度(1997)

- 4月に施行された「容器包装リサイクル法」に対応し、カレットの円滑なリサイクルを促進するための活動を実施
- 市町村で収集されるカレットの品質向上のため、「分別集されるあきびんの品質について」のパンフレットを制作
- 新たに「NEWSリサイクリング」を制作し会員等に配布



▲NEWSリサイクリング

平成10年度(1998)

- カレットの他用途利用の需要拡大をめざし、「カレット多用途利用セミナー」を開催
- カレットを混入使用したアスファルト舗装道路の追跡調査を実施
- エコロジーボトルについてエコマーク製品の認定を申請

平成11年度(1999)

- 11月11日、ガラスびんリサイクル促進協議会設立15周年記念講演会・懇親会を開催
- 経済的かつ効率的なガラスびんのリサイクルシステムの構築をめざし、緊急委員会を設置して総合的な改善活動を開始
- 「容器包装リサイクル法」に基き、平成12年度から16年度までの再商品化計画を制定

平成12年度(2000)

- カレット砂について「グリーン購入法」の適用を申請
- ガラス入りアスファルト舗装の再生合材による試験を実施
- ホームページ開設

平成13年度(2001)

- 再商品化費用検討プロジェクト、トータルフォローIT導入プロジェクト、他用途ネットワークIT導入プロジェクト、広報委員会を設置
- EPR(拡大生産者責任)についての研究事業を実施

平成14年度(2002)

- 他用途利用の情報、カレットの供給状況をインターネットにより提供できるシステムが完成
- 環境省「容器包装LCAに係る調査・検討事業」へ参画



▲カレット情報システムのパンフレット



びん再使用ネットワーク
中村秀次 氏

ガラスびんの文化的な魅力も伝わればいい。

びんのリユースを進める団体として、リターナブルびんに関するポータルサイトの開設やシンポジウムの開催は、とても嬉しく思っています。ガラスびんは、まさに環境にやさしくデザイン的にも美しい容器です。この広報誌で、他の容器にはないガラスびんの文化的な魅力を、広くアピールしていけたらいいですね。

平成15年度(2003)

- 南九州地域における900ml茶びんの統一リユースモデル事業(環境省循環型社会形成実証事業)へ参画

■びんのリサイクル通信創刊

■NO.1 ガラスびんにエコ容器の証



▲びんのリサイクル通信の創刊号

平成16年度(2004)

- 平成17年度「容器包装リサイクル法」の見直しに向け、「容リ法検討プロジェクト」を設置し対応を検討
- 当協議会の役割分担を検討するために「中長期課題検討プロジェクト」を設置、検討
- 専門業界紙22社、記者24名を招き、懇談会を実施

■NO.2 めざせ!カレットの品質向上

■NO.3 平成15年度事業計画・16年度事業計画

■NO.4 がんばれ!リターナブルびん!

平成17年度(2005)

- 3Rの推進に即した規約に改正し、3R推進部会を設置
- カレット工場・製びん工場へ記者を案内し、研修会を実施
- 容器包装リサイクル八団体共同で、「3R推進のための自主行動計画の策定」と「3R推進団体連絡会の結成」を発表



▲カレット工場の見学



▲3R推進団体連絡会の結成

■NO.5 もっと広がれ!あきびんの他用途利用

■NO.6 びんのリデュース、軽量化が進行中

■NO.7 南九州発、焼酎びんのリターナブル化

平成18年度(2006)

- ボトラー団体等に対して、びんの3R推進自主行動計画に関する説明会を実施
- 「容器包装リサイクルフォーラム in 横浜」「容器包装3R推進セミナー」「第1回3R活動推進フォーラム全国大会」に参画
- 環境省と経済産業省の委託を受け、リターナブルびんの促進に関するモデル事業を実施

■NO.8 今、カレット製造の現場では...

■NO.9 ステップアップ! びんの3R

■NO.10 リユースを推進するびん商に注目!



▲モデル事業で使用したネックリンガー



横浜市資源循環局
金沢工場
佐藤宏俊氏

促進協議会の広報ツールが役立っています。

当工場の見学者には、展示や映像で様々なリサイクルを紹介していますが、ペンギンが登場するDVDとリーフレット「ガラスびん3R作戦」は、とても好評です。とくに、こどもたちはキャラクターに感情移入するようで、説明しやすいですね。やはり、消費者へのPRIには、引き付けるための工夫が必要だと思います。

平成19年度(2007)

- 自治体に向けて化粧品びんリサイクルの啓発活動を開始
- 「3Rのためのガラス容器自主設計ガイドライン」に関するボトラー団体説明会を実施
- 「第2回容器包装3R推進フォーラム in 神戸」「エコテクノ 2007 3R&GPN推進フェア(北九州市)」に、3R推進団体連絡会で参画



▲化粧品びんリサイクル啓発のチラシ

- 3R早わかりムービー「ガラスびん3R作戦〜ペンギン南極へ帰る」を制作
- 八団体で、「容器包装の3R推進のための自主行動計画・2007年フォローアップ報告会」を開催



▲DVD「ガラスびん3R作戦」

■NO.11 リターナブルびんがよりスムーズに循環するために

■NO.12 ガラスびんも軽く!環境負荷も軽く!

■NO.13 3Rの優等生、ガラスびんにエールを!

平成20年度(2008)

- 業界新聞記者・雑誌記者を招いて、ガラスびん工場見学会(希望者)と平成20年度事業説明会、記者懇談会を開催
- ボトラー団体を対象に、「ガラスびん3R自主行動計画(平成19年度活動)報告会」を開催
- 「第3回容器包装3R推進フォーラム(2008 東京)」「第3回3R推進全国大会(山形)」に、3R推進団体連絡会で参画
- 八団体で、「容器包装の3R推進のための自主行動計画・2008年フォローアップ報告会」を開催



▲2008年フォローアップ報告会

- リターナブルびんに関する様々な情報を集約したポータルサイト「リターナブルびんナビ」を開設

■NO.14 人気の地サイダーでリターナブルびんも活躍中!

■NO.15 今も昔も、びんはエコの優等生

■NO.16 ガラスびんリサイクルの最新事情

平成21年度(2009)

- 「リターナブルびん もっと知ろうよ!大作戦」を東京・京都・仙台・名古屋・福岡で開催で開催
- 「第4回容器包装3R推進フォーラムin京都」「第4回3R推進全国大会(千葉)」に、3R推進団体連絡会で参画
- 八団体で、「容器包装の3R推進のための自主行動計画・2008年フォローアップ報告会」を開催
- NO.17 Webでリターナブルびんが見えてくる!
- NO.18 ボトラーから見たガラスびんの3R
- NO.19 ボトラーが語るガラスびんの3R



びん博士
庄司太一氏

ハートのあるガラスびんをつくってほしい!

日本の近代化とともに歩んできたガラスびんは、時代を反映しながら人々の生活を支えてきました。歴史あるガラスびんメーカーのびんに対する想い入れは、とても大切だと思います。まだまだ、びんには可能性があります。未来に向けて、ぜひ、人の心を動かすようなハートのあるガラスびんをつくってほしいですね。

昨年12月「エコプロダクツ2009」に出展。 環境省のWebサイト「Re-style」で紹介される。

昨年12月10日(木)～12日(土)、東京ビッグサイトで「エコプロダクツ2009」が開催され、当協議会も出展しました。三日間の来場者数(事務局発表)は182,510人で、前年より8,593人も増加しており、当ブースも多くの来場者がありました。八団体共催の「クイズラリー」では、抽選でいろいろなグッズが当たり、参加者は大喜びでした。



▲来場者に展示物について説明

今回の当協議会の展示について、環境省のWebサイト「Re-style」



▲たくさんの小学生で大盛況



▲当ブースの展示状況

の取材があり、「3Rによく適している容器のガラスびん。ブースでは、その特長をわかりやすく紹介していました。さまざまなカラーリングが透明で美しく、いろいろな形にデザインしやすいこともガラスびんの特徴。そんな特色がよく表現されたガラスびんを展示して、魅力をアピールしていました。」等々、レポート記事が掲載されました。

当協議会ホームページの 消費者と自治体のページをリニューアル。

当協議会のホームページのキッズサイトに続き、ガラスびんの魅力・ガラスびんの3R・びんの排出のルールをリニューアルしましたが、本年3月に消費者と自治体でご紹介する内容を一新しました。消費者の皆さんへは「軽量化したびん入り商品」や「あきびんの工夫した使われ方」等、また自治体関係の方へは「あきびんの品質向上策」や「自治体の取組事例」等の情報を掲載しています。さらに、それぞれのページで、びんの3Rの理解を深めていただくために当協議会からのメッセージもお届けしていきます。

■消費者のページ

<http://www.glass-recycle-as.gr.jp/consumer/index.html>

■自治体のページ

<http://www.glass-recycle-as.gr.jp/gover/index.html>



ガラスびんリサイクル促進協議会

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-21-16 日本ガラス工業センター1階
TEL.03-6279-2577 FAX.03-3360-0377
<http://www.glass-recycle-as.gr.jp>

■発行人 ガラスびんリサイクル促進協議会 事務局長 幸 智道

3R推進団体連絡会が 2009年フォローアップ報告会を開催。

昨年12月16日、経団連会館において、「3R推進団体連絡会」が、2009年フォローアップ報告会を開催し、「容器包装の3R推進のための自主行動計画」に基づき、2008年度の取組み状況とその成果について、報道関係者を招いて報告しました。

ガラスびんの3Rでは、リデュースは1本当たりの平均重量1.4%軽量化、リユースはリターナブルびんポータルサイトの公開、リサイクルはリサイクル率66.5%などの成果を報告しました。

●フォローアップ報告の詳細

http://www.glass-recycle-as.gr.jp/3r_suishin



▲2009年フォローアップ報告会



▲報告会に出席した報道関係者

「ガラスびんリサイクル」ポスターコンクール開催 小学生・中学生を対象に作品募集!

びんのリサイクル通信の創刊20号を記念して、ガラスびんのリサイクルをテーマとしたポスター・コンクールを開催します。こどもたちにエコな容器の代表選手「ガラスびん」のことをもっと身近に感じてもらい、リサイクルの大切さを理解してもらうことが本コンクールの大きな目的です。いろいろなアイデアを募集しますので、奮ってご応募してください。

小学生から中学生まで多数のエントリーがありますよう、募集告知にご協力くださいますよう、よろしくお願ひします。

■募集要項:本20号に差し込まれているチラシ(エントリー用紙を兼ねる)を参照してください。

■応募方法:チラシ下部にあるエントリー用紙に必要事項を記入して、作品の裏面上部に貼り、当協議会あてにお送りください。

※募集要項を記載したチラシは、当協議会のホームページからもダウンロードできます。



▲ポスターコンクール告知チラシ